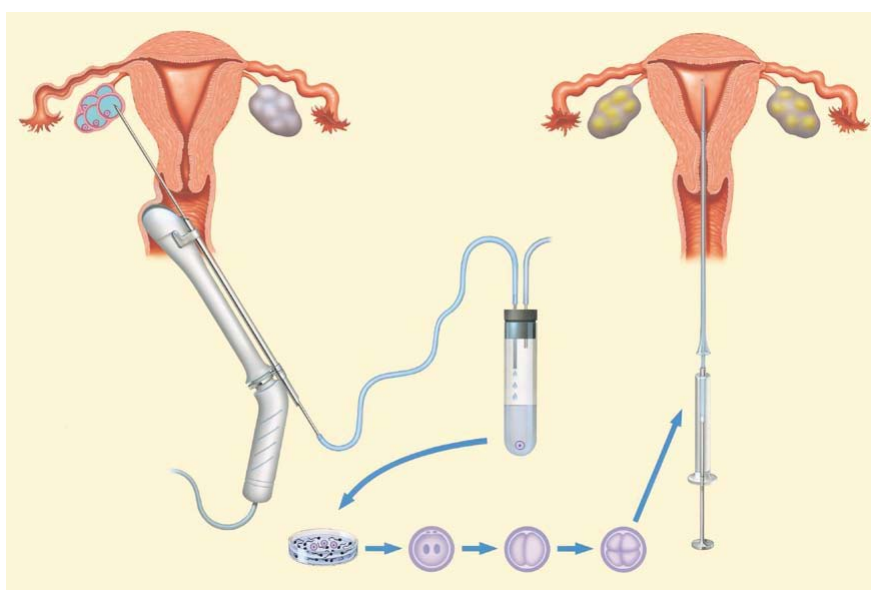


# 代理懐胎を考える

日本産科婦人科学会幹事

久具宏司

## 体外受精とは



**妊娠・出産に内在する危険性  
妊産婦死亡率**  
(出産10万あたりの妊産婦の産科的死亡)

**日本における妊産婦死亡率： 5.7 (2005年)**

世界全体では： 400 (2000年：WHO)  
アメリカ：7.1、 イギリス：5.3、 フランス：10.1  
(2003年)

**日本での推移：** 15.1 (1985年)  
80.4 (1965年)  
228.6 (1940年)

**妊娠・出産に内在する危険性**

**日本  
妊産婦死亡数： 62 (2005年)**

**死に至る可能性のある重症管理妊婦数  
毎年約4500 (厚生労働科学研究、2007年)  
妊婦の250人に1人は死に至る可能性がある**

## 代理懐胎で危険性は変化するか

代理懐胎における母体の周産期リスクに言及し、通常体外受精妊娠との比較を行った研究はきわめて少ない。

卵子提供妊娠では

妊娠中の異常出血、妊娠高血圧症候群、子宮内胎児発育遅延、早産が多い。

要因

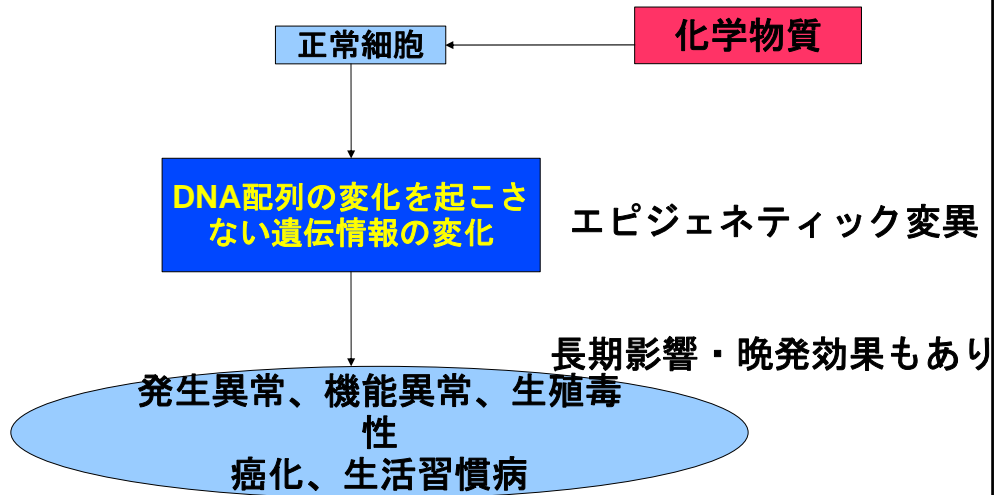
(懐胎女性の性機能の不全、**genetic incompatibility**)

## 代理懐胎の子への影響

長期にわたり影響を検討した研究はない。

# エピジェネティック変異

(通常の妊娠でも起こっている)



## 代理懐胎の対象者

### 子宮のない女性

- ・ 先天的
- ・ 子宮摘出を受けた女性

### 子宮のある女性

- ・ 妊娠成立が不可能と考えられる女性
- ・ 妊娠しても流産を繰り返す女性
- ・ 妊娠により健康を大きく損なう可能性のある女性